

自己評価報告書（2019年度）

2020年6月4日現在

北海道メディカル・スポーツ専門学校

目 次

学校の概要	1	基準7 学生の募集と受入れ.....	14
自己点検・自己評価に対する姿勢	3	基準8 財 務.....	15
学校関係者評価委員会の構成と意義	4	基準9 法令等の遵守	16
教育理念.....	5	基準10 社会貢献・地域貢献	17
学校の目標（今後5年間）	6	2019年度重点目標達成についての自己評価	18
2019年度の重点課題.....	7	2020年度の重点目標.....	19
基準1 教育理念・目的・育成人材像.....	8		
基準2 学校運営.....	9		
基準3 教育活動.....	10		
基準4 学修成果.....	11		
基準5 学生支援.....	12		
基準6 教育環境.....	13		

学校の概要

1. 学校の設置者

北海道メディカル・スポーツ専門学校は学校法人滋慶学園が設置する。学校法人滋慶学園は共通の理念のもとに専門学校を全国に運営する滋慶学園グループの構成法人である。

2. 開校の目的

本校は、道内はもとより国内の健康社会の実現に向けて【医療×スポーツ】の専門職業人教育を行うことをミッションとした学校である。

柔道整復師学科及び鍼灸師学科は日本古来の施術を通じて、スポーツ選手から一般人までの、治療と予防が出来る治療家の養成を目指す。また、スポーツトレーナー学科は、健康維持・推進及び各種スポーツ振興を通じて、健康で生きがいに満ちた社会が実現できるスポーツトレーナー、パーソナルトレーナー、フィットネスインストラクター、ジュニアスポーツ指導員、地域スポーツクラブマネジャーの養成を目指す。

3. 校長名、所在地、連絡先

学校長 佐藤 俊

所在地 北海道恵庭市恵み野北2丁目12-4 連絡先 0123-36-5500

学校の概要

4. 学校の沿革、歴史

- 1987年 9月 学校法人産業技術学園設立、北海道ハイテクノロジー専門学校設置を北海道知事に申請
- 12月 北海道知事により認可（学事第702号）
- 1994年 4月 メディカルスポーツ学科（健康運動実践指導者コース、医用電子科を編成変更した医用電子コース）を開設
- 2000年 3月 メディカルスポーツ学科を医療電子技術科へ改称
- 2002年 4月 柔道整復師学科（厚生労働大臣指定学科）、鍼灸学科（厚生労働大臣指定学科）を開設
- 2003年 4月 柔道整復師学科（厚生労働大臣指定学科）、鍼灸学科（厚生労働大臣指定学科）夜間部を開設
- 2010年 4月 鍼灸学科昼間部60名から30名に入学定員変更
- 2011年 4月 スポーツ学科を開設
- 2013年 4月 北海道ハイテクノロジー専門学校に設置されていたスポーツ学科・柔道整復師学科・鍼灸学科を移設し「北海道メディカル・スポーツ専門学校」を開校
- 2014年 3月 柔道整復師学科（夜間部）廃科
- 2014年 4月 恵庭市恵み野こどもの集う場所「フーレめぐみの」の指定管理を学校法人産業技術学園が受託しオープン
- 2015年 2月 文部科学省よりスポーツ学科、柔道整復師学科（昼間）、鍼灸学科（昼間）が職業実践専門課程に認定
- 2015年 4月 専門実践訓練給付制度 鍼灸学科（夜間）が厚生労働大臣の指定を受けスタート
スポーツ学科40名から50名に入学定員変更
- 2016年 2月 専門実践訓練給付制度及び、教育訓練支援給付制度 鍼灸学科（昼間）が厚生労働大臣の指定を受けスタート
- 2017年 4月 鍼灸学科（夜間）募集停止
- 2018年 4月 スポーツ学科からスポーツトレーナー学科に名称変更
- 2019年 4月 鍼灸学科（昼間）から鍼灸師学科へ名称変更 柔道整復師学科（昼間）から柔道整復師学科へ名称変更
学校法人産業技術学園と学校法人滋慶学園が統合合併にて学校法人滋慶学園に改称
- 2020年 4月 学校長変更

5. その他の諸活動及び防災活動 2016年2月恵庭市と「地域包括連携協定」及び「災害時における協力体制に関する協定」を締結。地域スポーツ振興、防災の際の相互協力をすることを確認し合い、本学園が地域貢献に寄与出来る体制としている。

自己点検・自己評価に対する姿勢

本校は、一人ひとりが目標を達成できるよう、職業人教育の正しい目標設定と目標に到達させる※教育システムの開発に取り組んでいる。

実践的な職業人教育を目的とした自らの教育活動、学校運営について、社会のニーズを踏まえた目指すべき目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取り組みの適切さ等について自ら評価、公表することにより、学校として組織的・継続的な改善を図っている。

また、学校関係者評価委員会を組織し、自己評価の結果に基づいて行なう学校関係者評価の実施とその結果の公表・説明を行い、適切に説明責任を果たすとともに、学校関係者等からの理解と参画を得て、地域における関係者と学校との連携強化を推進し、日々教職員の教育力・運営力向上に努める。

※教育システム

「養成目的と教育目標」（養成目的はその学科の社会的ニーズ、教育目標は卒業時到達目標）、「目標達成プロセス」（カリキュラム、学年暦、時間割、シラバス）、「目標達成素材」（教科書、教材、教育技法）、「目標達成支援人材」（担任、専任講師、非常勤講師）、「評価基準」（透明性、公平性、競争性）の5要素で考えている。

学校関係者評価委員会の構成と意義

自己点検・自己評価を行なうにあたり、学校関係者評価委員会を組織する。評価委員会を組織することによって、学校の教育活動そのものの質の向上、学校運営の改善・強化を推進する。

評価委員は学生保護者、卒業生、関係業界、高等学校、地域住民、自治体関係部局などの関係者で構成し、自己評価の結果に基づいて行なう学校関係者評価の実施とその結果の公表・説明を行い、学校関係者等からの理解と参画を得て、意見・評価を頂く。

学校関係者評価委員会を活用し、学校の現状について適切に説明責任を果たすとともに、地域における関係者と学校との連携強化を推進し、日々教職員の教育力・運営力向上に努めていく。

教育理念

北海道メディカル・スポーツ専門学校は、「職業人教育を通じて社会に貢献する」ことを使命とし、「実学教育」「人間教育」「国際教育」を教育の柱とした業界に直結した職業人の養成を実践する高等教育機関である。

また、「学生・保護者からの信頼」「高等学校からの信頼」「業界からの信頼」「地域からの信頼」を得ることを、学校運営の基本方針としている。

本校は、医療国家資格+スポーツ資格取得カリキュラムで、国家資格とスポーツ資格を取得し、スポーツ競技者の身体ケア及び、スポーツ愛好者の健康管理が出来る人材を養成している。また、教育施設（アリーナ・インドアスタジアム等）をプロチーム、アスリートに練習場として提供、アスリートとからスポーツを学ぶこと、スポーツを支えること学び、実践力を高める教育でスポーツに関わる人材養成に力を注ぎ、「スポーツ王国北海道プラン」実現に貢献する。

※建学の理念

①実学教育

スペシャリストが求められる時代に即し、業界に直結した専門学校として、即戦力となる知識・技術（テクニカルスキル）を身につける。

一人ひとりの個性を最大限に活かし、それぞれの業界で力が発揮でき、人に感動を与え、ビジネスマインドに富んだ「仕事ができる人材」を各業界との連携のもと養成を行う。これらを具現化するために授業システムも、見て（LOOK）、体験して（TRY）、聴いて（LISTEN）、考える（THINK）というプロセスで学習する「体験学習」に重点をおいたLT2教育システムの実践や国家試験対策等、専門職として業務の遂行に必要な資格は確実に合格するよう万全の指導を行っている。

②人間教育

プロとしての身構え、気構え、心構えを持ち、他人への思いやりの気持ちを持った職業人を養成する。

また、専門職として仕事をする上で、常にサービスとケアを怠らず、細やかな対応ができるとともに、コミュニケーション力を持った人材育成を目指す。いかに技術的に優れていても人間性に欠けていたら信頼される職業人にはなれない。学校生活のなかで、いかに人間力を高める教育を行い、コミュニケーション能力やリーダーシップがとれる対人スキル（ヒューマンスキル）を会得し同時にたくましさも身につけていくことが目標である。そのため、本校は開学以来『今日も笑顔で挨拶を』を標語として掲げ、挨拶を習慣にする指導にとりくむ他、産学協同イベントや卒業制作・卒業研究・ボランティア活動として行っている。

③国際教育

在学中からコミュニケーション言語としての英語、および専門英語を身につけるばかりでなく、より広い視野でモノを捉える国際的な感性を養う。

『自分を愛することの出来ない人に、他人を愛することは出来ない』をモットーに、日本人としてのアイデンティティを確立したうえで、価値観や文化の違いを尊重できるよう導く。そのため在学中は、海外の学校との交流をベースに海外研修・海外インターンシップ・海外留学等の制度を活かし、それぞれの分野で先進的な取り組みをしている世界標準を学び、グローバルな視点とプロとして仕事をする心構えを育成する。グループワークを通して成長出来る様教育を実践する。

学校の目標（今後5年間）

5カ年の目標

1. 中途退学率：2021年度までに0%を目指す
2. 専門就職率：2021年度までに100%を目指す
3. 国家試験合格：2021年度 全科100%を目指す。
4. 離職率：2021年度 0%を目指す（入職後1年以内）。
5. 学生募集：2021年度 業界・地域・受験生ニーズに応える学科構成で全学科の入学定員を満たす。

目標の意図

1. 専門学校の中退がきっかけでニート、フリーターになるリスクは高く、その予防は社会的使命といえる。また、中退は学生個人の問題に帰属するととらえず、私たちの教育力、学生の支援力に課題があるととらえ、教育力の向上に取り組んでいる。
2. 学生が学んだ専門性を活かした就職が出来るかが専門学校の教育力の価値になると考え、単なる就職ではなく、専門就職にこだわり、データを公表している。
3. 就職した学生が1年以内に離職してしまうということは、就職先と本人のやりたい事と適正が合わなかった可能性が高く、学校のキャリア支援に課題があると言える。このようなミスマッチを無くことを目標とし、情報収集とキャリア支援を徹底して行う。

目標を達成するための方策

1. インドアスタジアム、アリーナ等の教育環境を最大限に活かした独自のスポーツ教育を推し進める。
そのために、産官学連携及び、アスリートとの連携推進を図る。
2. グループ姉妹校（東京スポーツ・レクリエーション専門学校・東京メディカル・スポーツ専門学校等）との連携を強化し、トレーナー教育の充実を図る。
3. ポスト2020年を見据えたスポーツの新しい動きに対応した新学科（コース、専攻含む）を開発する。

2019年度の重点課題

1. 【アスリートと共に学ぶ】学校コンセプトに賛同して頂けるチームとアスリートの方々との連携先・数を増やす
2. 受験生ニーズに応える教育のフレームに変える。
3. 1・2を実現出来る組織体制を強化する。

基準 1 教育理念・目的・育人人材像

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>総括</p> <p>1. 建学の理念・目的について スポーツを支える人材養成（トレーナー、治療家）をブレることなく推し進めている。 Jリーグトレーナーとしての実績（2名） 専門就職 100%の実績がその証しである。</p> <p>2. 育人人材像について スポーツを支えるトレーナー、治療家の養成校としてのディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシーを掲げ、教育の展開をしている。</p> <p>3. 特色について 医療国家資格とスポーツ資格を取得した「治療のできるトレーナー」養成のための、3つ教育プログラムを提供している（※特記事項へ記載）。</p> <p>課題 ポスト 2020 のスポーツ界を視野に入れ、【テクノロジー×スポーツ】をキーワードにした教育の展開を図る。</p>	<p>課題と対策 ポスト 2020 のスポーツ界を視野に入れ、【テクノロジー×スポーツ】をキーワードにした教育の展開を図る。 ⇒テクノロジー関連企業との教育連携を図る。</p>	<p>※3つの教育プログラムの提供</p> <p>① 医療国家資格+アスレティックトレーナー取得可能なプログラム提供</p> <p>② 産官学アスリート連携教育、スポーツチーム、附帯接骨院・鍼灸院による臨床実習等実践機会の提供</p> <p>③ 資格対策プログラム（国家資格対策、アスレティックトレーナー資格対策）の提供</p>

最終更新日付

2020年6月4日

記載責任者

中山 幹生

基準 2 学校運営

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>総括</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学校運営・事業計画について 全教職員が学校運営に携わる環境創りを図り、学校・学科の教育成果向上と、常に市場ニーズに対応してゆく教育環境創り（新学科開発や教育改革等）を計画している。 2. 組織運営について 学校の事業計画は毎年 11 月に作成、その後 12 月～3 月にかけて研修を行い、全教職員へ周知徹底してゆく学校運営に努めている。 3. 意思決定システム・情報の一元化について <ol style="list-style-type: none"> 1. 運営方針の実現のための学校長承認会議、分野会議や学校全体会議及び学科会議を通じて、情報共有及び、問題点や課題を明らかにし、速やかに解決策を出し実行している。 <p>課題</p> <p>学校関係者評価委員・教育課程編成委員との連携との更なる連携強化を図る。</p>	<p>課題と対策</p> <p>学校評価委委員・教育課程編成委員との更なる連携を図る。 ⇒教育の 2～3 年間のゴールを明確にし、実習設備・学習内容の質向上を図る。</p>	<p>学科会議は事務局長、教務部長、広報センター、学科長、スタッフ全員で構成され、教育・広報の両分野の問題を早期に発見し対策を立て、実行するプロセスを徹底している。</p>

最終更新日付	2020 年 6 月 4 日	記載責任者	中山 幹生
--------	----------------	-------	-------

基準 3 教育活動

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>総括</p> <p>1. 教育目標・教育課程・評価基準について ディプロマポリシー、カリキュラムポリシーに沿った教育展開、また、キャリア教育の視点に立って、入学前～入学後～卒業後の教育ロードマップに合わせた教育（カリキュラムやプログラム）を展開している。 評価については、学生便覧細則に明示しており、かつ進級卒業判定会議において学則に定める規定に則り適正に評価している。</p> <p>2. 資格取得の指導体制について 一人ひとりについての技能や知識の到達レベルを確認し、学習成果が充分でない学生には、個別補講・支援体制を整えている。</p> <p>3. 教員・教員組織について 各種研修（国家試験対策研修、教育学会、マネジメント研修、カウンセリング研修など）を充実させ、教員のスキル・マインドの質向上を図っている。</p> <p>課題 GPA評価の導入</p>	<p>課題と対策 GPA評価の導入 ⇒2019年度入学生より導入、学則変更、成績入力、成績発行のシステム化を進める。</p>	<p>レバンガ北海道（バスケットボール）との教育連携をスタートさせた年度である。</p> <p>エスポラーダ北海道（フットサル） ノルディーア北海道（女子サッカー） A-bank北海道（アスリート派遣企業） 道内及び本州とのチーム、企業との教育連携は継続し、実践的な授業の展開を継続している。</p>

最終更新日付	2020年6月4日	記載責任者	中山 幹生
--------	-----------	-------	-------

基準 4 学修成果

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>総括</p> <p>1. 就職率について 一人ひとりの就職希望状況を把握し、第一専門分野の就職率を高めるよう努めている。また、1年以内の離職を抑えることも目標とし、支援強化をしている。</p> <p>【結果】 就職内定率 100% 第1専門職率 100% 離職率 5.3% (2018年度卒業生)</p> <p>2. 資格合格率について 1年次より国家資格試験対策について実施。</p> <p>【結果】 はり師（昼）100% （夜）78.6% きゅう師（昼）90% （夜）78.6% 柔道整復師 85.7% ※鍼灸師・柔道整復師も全国平均を上回る。</p> <p>3. 退学率について 学生面談、学習状況に応じてた支援を推し進めるも、年度退学率 7.5%で終える。 心身の状況悪化、学費課題での退学（除籍含む）が増えた。</p> <p>課題 退学率の低減を図る。</p>	<p>課題と対策</p> <p>退学率の低減を図る。 ⇒授業改革（※）を推し進めることで 目標喪失からの退学は0名にする。</p> <p>※学校コンセプトに沿った授業の展開、かつ、より分かり易く、効果的な授業の展開</p>	<p>難易度の高い日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー資格合格者累計37名となる。</p> <p>滋慶学園グループ全体の合格者累計も 677 名となり、グループ教育力、ネットワーク力の強さを証明することができた。</p>

最終更新日付

2020年6月4日

記載責任者

中山 幹生

基準 5 学生支援

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>総括</p> <p>1. 就職支援・卒後教育について 企業との連携で、人事担当者の講話を積極的に導入し、仕事の生きがい・やりがいを伝えることで、内定率の向上、離職率の低減に努めている。 （※結果は基準4のシートに記載済み） 卒後教育は月1回ペースで継続的に開催している。</p> <p>2. 資格支援について 早期より資格取得のための講座受講や資格試験対策についての支援を行い、指導方法についても検証を行い改善を図っている。</p> <p>3. 学費支援について 日本学生支援機構奨学金活用者含め、家庭状況に応じた相談体制が、学生サービスセンター中心にできている。</p> <p>課題 高等教育の無償化に対する準備を進める。</p>	<p>課題と対策</p> <p>高等教育の無償化に対する準備を進める。 ⇒行政のスケジュールに合わせた申請書類等の準備（専門部署も設置）。</p>	<p>JESC（※）国家資格対策センターで試験の傾向・学生の能力・動向を分析し、全員合格を目指した授業サポートを行っている。</p> <p>※JESC：滋慶教育科学研究所：学園の教育力向上、教職員の質向上を図る研究機関</p> <p>課外活動としての8つの運動部を有する（バスケットボール、野球、バレー、サッカー、陸上、テニス、バドミントン、柔道）。その活動を通じて、トレーナーとしての能力、セルフマネジメント力、チームマネジメント力向上が図れるようにしている。</p>

最終更新日付

2020年6月4日

記載責任者

中山 幹生

基準 6 教育環境

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>総括</p> <p>1. 施設設備等について 施設、設備、機器等は法令に準拠しており、トレーナー・治療家養成を实践するうえでの整備は整えている。</p> <p>2. 学内実習・インターンシップについて プロチームとの教育連携継続、アスレティックトレーナー実習連携継続、また、常に新規開拓をし、アスリートからスポーツを学ぶ環境を提供、在学中に実践的なトレーナースキルを磨くことができている。この取り組みで、トレーナー・治療家としてスポーツに貢献することの意義を伝えている。</p> <p>3. 防火・安全管理について 避難訓練は、年1回。災害時の安否確認システムを有し訓練を行っている。防災の意識を高めている。</p> <p>課題 校舎老朽化箇所の計画的な補修と教育課程編成委員会での指摘事項の改善</p>	<p>課題と対策</p> <p>校舎老朽化箇所の計画的な補修と教育課程編成委員会での指摘事項の改善 ⇒優先順位の高いものから補修・改修を計画し、常に学習環境を整備する。</p>	<p>開校以来、連続で北海道高校陸上競技大会・北海道ハイテクAC女子陸上選手権大会にアスリートサポートクラブ（課外活動）が参加し、競技場の中での、スポーツ選手のケアが出来る環境を創ることを継続している。</p> <p>年度の後半より、道内高等学校への部活動支援の強化を図り（実績10校）、スポーツを通じての高専連携教育を实践している。</p>

最終更新日付

2020年6月4日

記載責任者

中山 幹生

基準 7 学生の募集と受入れ

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>総括</p> <p>1. 学生の募集について 道専修各連の定めたルールに基づいた募集開始時期を遵守し、過大な広告はせず、根拠数字を記載するなど、適正に募集をするよう配慮している。</p> <p>2. 入学選考について 入学選考は募集要項、入学試験規定を定めこれを運用しており、可否についても公平、厳正に実施している。</p> <p>課題</p> <p>1. 入学定員の充足を図る。</p> <p>2. 部活支援による職業認知を強化する。</p>	<p>課題と対策</p> <p>1. 入学定員の充足を図る。 ⇒ポスト 2020 で活躍出来る人材養成のため、【テクノロジー×スポーツ】をキーワードにした学科を新設を検討する。</p> <p>⇒Web(特にスマートフォン)中心に本校の最新情報を提供する(特に教育の取り組み、受験支援の情報)。</p> <p>2. 部活支援による職業認知を強化する。 ⇒部活の支援で実施するトレーナー、治療家のメソッドを目の当たりにすることで、職業認知を早期に図れるようにする。</p>	<p>入学前教育を 11 月、2 月と開催し、キャリア形成段階で、学習の準備、心の準備ができるプログラム強化を図っている。</p> <p>早期合格者に対する教育コンテンツの提供として、e-learning を活用し、学習の機会を提供している。</p>

最終更新日付

2020 年 6 月 4 日

記載責任者

中山 幹生

基準 8 財 務

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>総括</p> <p>1. 財務基盤について キャッシュフローの経営を重視し、収支と支出のバランスはとれており、繰越収入超過金はない。</p> <p>2. 予算・収支計画について 各学科での予算作成と予算執行が WEB 上で行えるシステムにより見える化の徹底と管理ができており、より健全な学校運営ができるよう財務基盤を安定させる仕組みが確立している。</p> <p>3. 財務情報の公開について 自校ホームページにて公開済みである。</p> <p>課題 監査における指摘事項の改善推進</p>	<p>課題と対策 監査における指摘事項の改善推進 ⇒PDCA サイクルを実践できる組織とする。</p>	<p>中長期的事業計画を立て、その中で収支計画を作成している。</p> <p>四半期ごとの収支実績の把握、及び修正予算の作成と、かつ、監事及び公認会計士による監査を行い、適切な学校運営を実践している。</p>

最終更新日付	2020年6月4日	記載責任者	中山 幹生
--------	-----------	-------	-------

基準 9 法令等の遵守

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>総括</p> <p>1. 関係法令・設置基準等の遵守について 書類の整理、計算書類の整備、各種財務書類の整理整頓が出来ており、財務情報公開の体制整備も出来ている。</p> <p>2. 個人情報保護について 2005年4月1日に個人情報保護の体制は完了しており、教職員への啓蒙のための研修制度やその運営体制の整備に力を入れている。「TRUST-e」より国際規格の認証を獲得している。</p> <p>3. 学校評価について 自己点検・自己評価についての方針の基、委員会を組織化し、実施・運営している。</p> <p>課題 高等教育の無償化に対する準備を進める。</p>	<p>課題と対策</p> <p>高等教育の無償化に対する準備を進める。 ⇒行政のスケジュールに合わせた申請書類等の準備（専門部署も設置）。</p>	<p>自校ホームページ上で財務状況、教育課程を含む運営状況について情報公開を行っている。</p>

最終更新日付

2020年6月4日

記載責任者

中山 幹生

基準 10 社会貢献・地域貢献

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>総括</p> <p>1. 社会貢献・地域貢献について</p> <p>地域のスポーツイベントの補助やサポートメンバーとしての協力を継続的に行っている。</p> <p>また、健康管理のための、附属接骨院、鍼灸院を広く地域の方々に活用しやすい環境にしている。</p> <p>課題</p> <p>地域スポーツ振興の継続</p>	<p>課題と対策</p> <p>地域スポーツ振興の継続</p> <p>⇒企業、行政（地域）、アスリートとの連携強化を図り、地域スポーツに貢献し続ける。（そのことが、学生にとって実践的教育プログラムになる）。</p>	<p>2016年2月 恵庭市と地方創生に向けた協力体制強化のため、「包括連携協定」を締結した。</p> <p>本校が地域に提供出来るプログラムを展開し、地域スポーツ振興へ寄与出来ている。</p>

最終更新日付	2020年6月4日	記載責任者	中山 幹生
--------	-----------	-------	-------

2019 年度重点目標達成についての自己評価

北海道メディカル・スポーツ専門学校

事務局長 結城 健二

2019 年度重点目標	達成状況	今後の課題
<p>1. 【アスリートと共に学ぶ】学校コンセプトに賛同して頂けるチームとアスリートの方々との連携先・数を増やす</p> <p>2. 受験生ニーズに応える教育のフレームに変える。</p> <p>3. 1・2を実現出来る組織体制を強化する。</p>	<p>1. 全日本プロレス、レバンガ北海道、室蘭シャークスとの教育連携を実現し、特別授業を開催した。</p> <p>2. 学生負担が強かった W スクールを廃止して、学びやすくゆとりあるカリキュラムを再構築するとともに、スポーツデータアナリスト専攻、ボディメイク専攻を新設し X-tech を取り入れたカリキュラムとした。</p> <p>3. 2021 年に北海道ハイテクノロジー専門学校と統合することで、5G 導入で変わるスポーツ業界に対応するための新しい専攻（スポーツデータアナリスト、ボディメイク）を準備する。</p>	<p>1. Society5.0 時代に必要とされる人材育成と、5G 導入で変わるスポーツ業界に対応するための新しい専攻（スポーツデータアナリスト、ボディメイク）を準備する。</p> <p>2. 企業連携により学内に AI を導入。顧客満足度を高める。新専攻の連携先を開拓して産学連携をさらに進めていく。</p> <p>3. 各種資格取得に関する教育の、教授法の改善に努める。</p>

2020年度の重点目標

1. Society5.0時代に必要とされる人材育成と、5G導入で変わるスポーツ業界に対応するための新しい専攻（スポーツデータアナリスト、ボディメイク）を準備する。
2. 企業連携により学内にAIを導入。顧客満足度を高める。新専攻の連携先を開拓して産学連携をさらに進めていく。
3. 各種資格取得に関する教育の、教授法の改善に努める。